

米国景気の回復の恩恵を受けるメキシコ

Raku Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

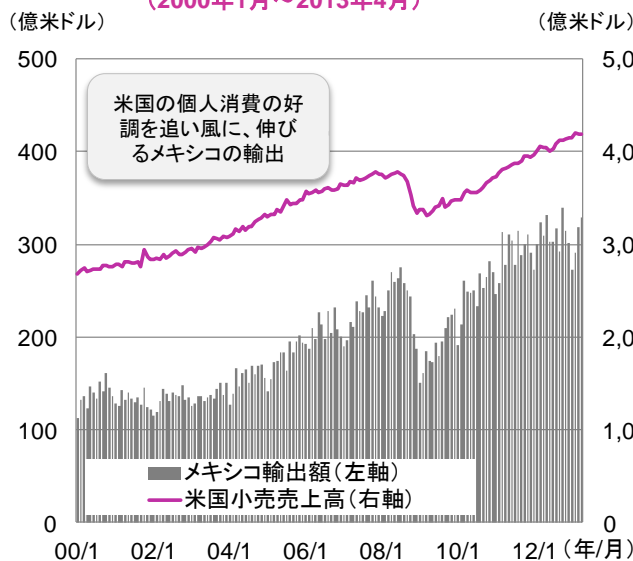
メキシコ経済の動向を知るための重要な手掛かりとして、自動車・自動車関連部品輸出および移民労働者からの家族への送金(労働者送金)を挙げることができます。

近年、メキシコのGDPの約3割を占める輸出は堅調に伸びており、中でも割合が一番高い自動車・自動車関連部品が好調です。同国は、国内での完成車の生産、輸出を加速させ、2012年は年間の自動車生産台数が約288万台、輸出台数が約235万台と、それぞれ過去最高を記録しています。メキシコは1994年にNAFTA(北米自由貿易協定)が発効して以降、更に世界40カ国以上の国との間でFTA(自由貿易協定)を締結するなど、積極的に対外開放政策をとって貿易量を拡大させており、主な輸出先は米国となっています。こうした堅調な輸出や、それに伴う自動車を中心とした製造業の好調さをけん引役に、今年の実質GDP成長率は、近隣諸国の米国、ブラジルを上回る3.3%と予想されています(2013年4月時点のIMF予想)。

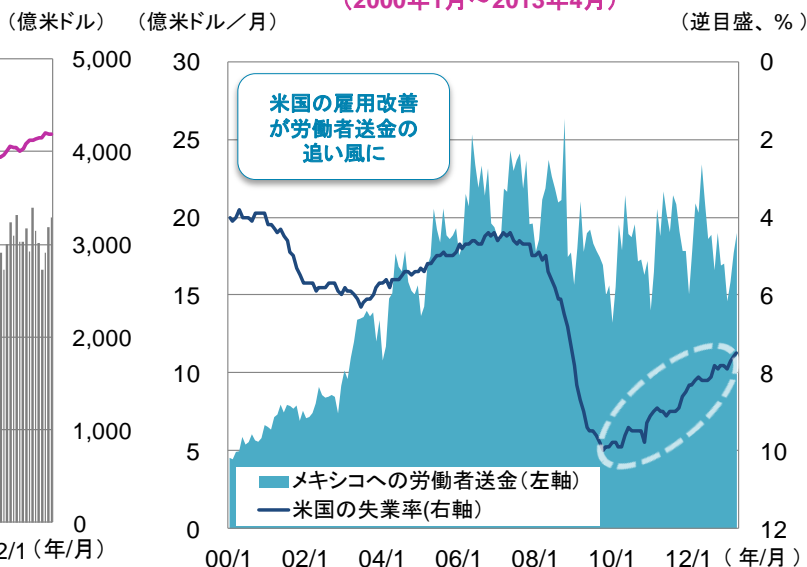
一方、メキシコ人の海外から母国への労働者送金は、対内直接投資額に匹敵する年間200億米ドルを超え、国内個人消費の動向を見る上で注目されています。米国への移民はメキシコ人が最も多く、米国への年間移民数全体の13%を超えています(2011年)。これらの移民からの送金は、メキシコ国内の低所得者層の家計を下支えする重要な役割を果たしています。

このような特徴から、メキシコは米国の景気動向に影響されやすいことがわかります。足元の米国経済は、小売売上高が堅調に推移しており、また、雇用環境も緩やかながら回復基調にあります。メキシコ経済の重要な構成要因となる輸出も、労働者送金も引き続きその恩恵を受けると考えられます。

メキシコの輸出と米国の小売売上高 (2000年1月～2013年4月)



メキシコ人の労働者送金と米国の雇用環境 (2000年1月～2013年4月)



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。